

# 公開授業だより

平成29年2月8日(水) NO. 4

## ～アクティブラーニングを取り入れての授業改善～

今日のM先生の研究授業(授業公開)は、芸術科を中心に、13名の先生方にご見学いただきました。授業は、シューベルトの「野ばら」を、楽典(音楽の基礎的な規則)の知識を活用して小グループに分かれ分析するものでした。先日の見せていただいた英語科のグループワークを何度も取り入れた「聞く、話す、読む、書く」の主体的・協働的な参加型授業と基本的には同じ手法で、見学者にとってもアクティブラーニングとは何かを学ぶことのできる、素晴らしい公開授業でした。

### 科目 「音楽理論1」 担当 M 先生

日時 2月8日(水) 1限 教室 音楽教室

単元 「和声(和音の機能)」

■授業の形態 グループによる協働的な学習

■授業のテーマ 1年間のまとめとして、学んだ楽典(音程、音階と調、和音、楽語等)に関する知識を活用し、グループで実際の楽曲を分析する活動を行なう。音楽理論の学習で得た客観的な知識と、歌唱・演奏の経験から得られる経験知とを結びつけ、楽曲の成り立ちについて理解を深め、楽典を学ぶ意義を納得する。

■授業の進め方 ①グループでシューベルトの《野ばら》を読譜・歌唱(伴奏)する活動  
②個人で楽譜を短3度低く(Cdurに)移調し、移動ドで歌唱する活動  
③個人又はグループで伴奏の楽譜を読み取り、伴奏の音を和音に集約し記譜する活動  
④楽曲の和音進行、転調、カデンツの型をグループで分析する活動  
⑤分析結果を発表、聞く活動  
⑥分析結果を生かした楽曲の表現について考える活動  
⑦考えた表現方法を生かしてグループで歌唱する活動  
以上を、単元の主要項目ごとに活動時間を決めて行う  
本時は④～⑥の活動が中心

### <授業者より>

- 1時間目にも関わらずたくさんの先生方に来ていただきありがとうございました。
- 音楽理論の授業では生徒に「暗記」を要求することがどうしても多くなってしまいます。生徒からは「これを覚えてどうなるのか?」といった率直な言葉が聞かれたこともありました。今回の授業は「暗記」した知識を活用して「うなずき」や「気づき」「ひらめき」を引き起こすことを意図しました。
- 「音楽の授業は元々アクティブラーニングである」とする立場の教育関係者や研究者もいますが、自分は異なります。例えば、指導者の楽曲に対する解釈やイメージを生徒に演奏(歌唱)で再現させる活動(授業)はアクティブラーニングとは言えず、生徒が楽曲について音や楽譜を起点に考える音楽的な思考のスキルと、表現する演奏のスキルの両方を学ばせることが必要と考えます。
- iPadを利用して効率よく授業を進められるよう準備していましたが、今日の授業では最後のまとめの時間が足りず不十分に終わってしまいました。
- 評価の方法については、生徒の思考の過程が可視化できるようなワークシートや、問いを工夫していくことが今後の課題と思っています。

